

## 見つかった主な遺構

今回の発掘調査では、掘立柱建物、門、通路側溝などが見つかりました。

### 掘立柱建物について

掘立柱建物は、東西5間（約13.2m）、南北2間（約7.8m）の大きな建物跡です。柱穴は大変大きく、一番大きな北西隅の柱穴は直径約90cm、深さ約90cmもあります。城主に仕える家来の住まいと考えられます。

### 通路及び門について

掘立柱建物の東側には、東西方向に約6.0m間隔で並行する2条の溝があります。この溝は現在の道路の東側にも続いており、主要道路と建物を結ぶ通路であると考えられます。

通路の中央には、南北4.0m、東西0.6m間隔で柱穴が見つかりました。外側（東側）の柱穴が大きいため門柱、内側（西側）はやや小さいため門柱を支える柱と考えられます。

### 石敷き遺構について

昨年度見つかった石敷き遺構の敷石を除去したところ、四隅と北・西・南辺の中央部で柱穴が見つかり、掘立柱建物であることがわかりました。

## 出土遺物

今回見つかった遺物は、戦国～安土桃山時代（約500～400年前）の愛知県の瀬戸や岐阜県的美濃で焼かれた陶器の皿や天目茶碗、播鉢、中国で焼かれて輸入された白磁皿などがあります。播鉢はよく使われていて擦り目が減っているのがわかります。



## まとめ

今回の発掘調査により、新たに掘立柱建物・門を持つ区画が見つかりました。昨年度の発掘調査では、土塁・掘立柱建物・石敷き遺構（「蔵」）を持つ区画、礎石建物・石敷き遺構（「蔵」）も持つ屋敷が見つかっており、これらは広場を挟んで配置されています。内容の違う屋敷がどのような性格を持つのか、大変興味深いところです。

遺跡名 田辺城跡  
原因事業 東海環状自動車道建設事業  
調査委託 国土交通省中部地方整備局  
調査主体 三重県教育委員会  
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503  
TEL:0596-52-1732/FAX:0596-52-7035 <http://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/index.shtm>  
いなべ整理所 〒511-0415 三重県いなべ市北勢町東貝野 454 番地  
TEL:0594-72-8955/FAX:0594-72-8970

# 東海環状自動車道 発掘調査だより

（田辺城跡（第2次）発掘調査現地説明会資料）いなべ編 No.5

三重県埋蔵文化財センター

2018.11.23



田辺城跡第2次発掘調査遠景（南上空から撮影）

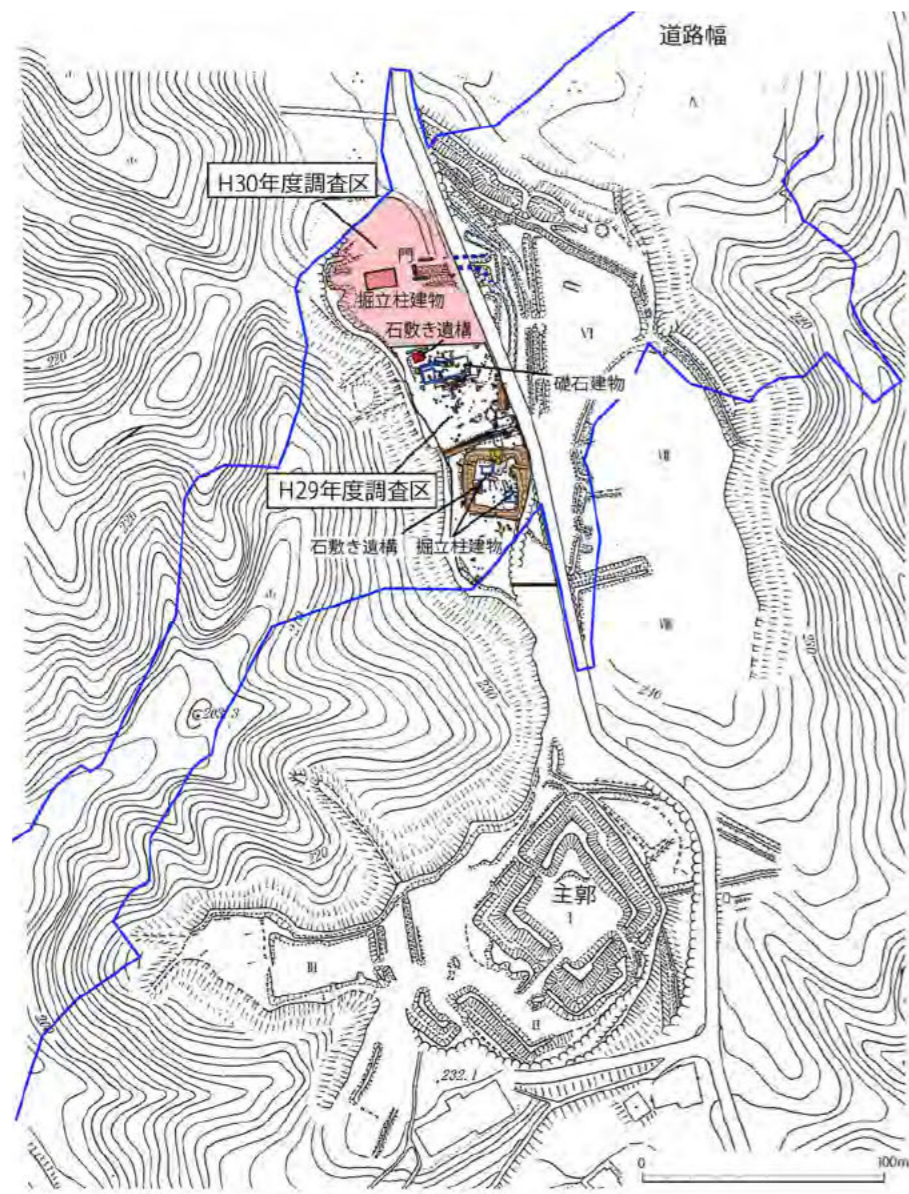
## はじめに

三重県埋蔵文化財センターでは、平成29年度から東海環状自動車道建設事業に伴い、いなべ市北勢町田辺にある田辺城跡（たなべじょうあと）の発掘調査を行っています。

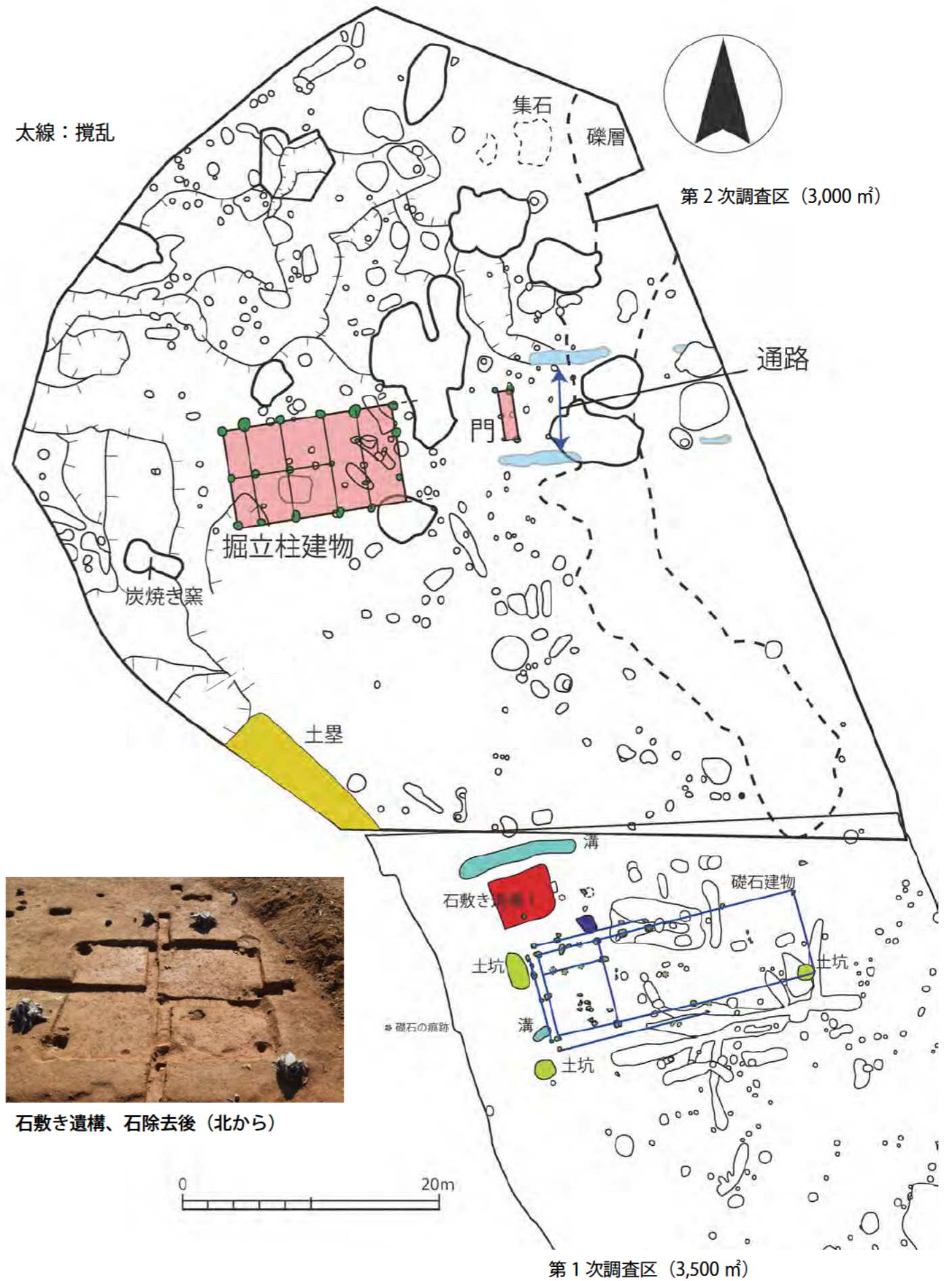
平成29年度は、主郭（しゅかく）から約200m北に離れた場所で、3,500㎡の発掘調査を行い、礎石建物や「蔵」と考えられる石敷き遺構が見つかりました。出土遺物から安土桃山時代の建物跡と考えられます。田辺城跡は天正14年（1586）ごろに木造氏により築造されたと伝えられており、同じころに人々が生活していたことが明らかとなりました。

平成30年度は、平成29年度調査区の北側で約3,000㎡の調査を行いました。

それでは、今回の発掘調査で何が明らかになったのか、いにしへの田辺城の姿を思い浮かべながら、発掘調査の様子をのぞいてみましょう。



伊藤徳也『再発見・北伊勢の城』2008 に平面図を合成



田辺城跡平面図 (1:400)



掘立柱建物 (西から)



掘立柱建物 柱穴掘削風景 (東から)



門、通路 (東から)



門 (南側面から)



石敷き遺構、石除去後 (北から)

